平成18年度に
大学評価・学位授与機構が行った
認証評価の結果について

2007年9月20日

大学評価・学位授与機構
荻　上　紘　一

大学機関別認証評価の目的

- 認証評価機関が定める評価基準に基づいて、大学を定期的に評価することにより、教育研究活動等の質を保証する。（Accreditation）
- 評価結果を各大学にフィードバックすることにより、教育研究活動等の改善に役立てる。（Evaluation）
- 大学の教育研究活動等の状況を社会に分かりやすく示す。（Accountability）

大学評価・学位授与機構が行う 大学機関別認証評価の基本的な方針

1. 大学評価基準に基づく評価
2. 教育活動を中心とした評価
3. 各大学の個性の伸長に資する評価
4. 自己評価に基づく評価
5. ピア・レビューを中心とした評価
6. 透明性の高い開かれた評価

18年度の評価対象大学

- 国立大学：弘前大学、秋田大学、岩手大学、山形大学、東京農工大学、京都教育大学、徳島大学
- 公立大学：奈良県立医科大学、沖縄県立芸術大学、沖縄県立看護大学
- 公立短期大学：川崎市立看護短期大学

評価結果

- 観点毎に対象大学の状況を記述し、それに対する判断を行った。
- 基準毎に「満たしている」「満たしていない」の判断を行った。
- 全ての対象大学に対して「大学評価・学位授与機構が定める評価基準を満たしている」と評価した。

各大学の個性の伸長に資する評価

基準毎に「優れた点」と「改善を要する点」を積極的に採り上げ、その中から主なものを選んで評価報告書の1ページ目に掲載した。

「優れた点」の例

- 特色ある取組
  - 「地域に開かれた大学」であることを社会にアピールするため、キャンパス全体をミュージアムとして開放している。
- 大学の目的に照らして、優れている点
  - 大学設置の目的に沿って県民の期待に応えるよう、地域推薦入学制度を設け、県内出身者の数を確保している。
- 大学改革への先進的な取組
  - 「教育の質を向上させるための学生ワーキンググループ」や学部の教育ワークショップへの学生参加など、教員と学生が協同で教育改善活動を実施している。
- 一般的見地から見て、優れていると思われる点
  - 講義室、演習室は広く、数も十分確保されている。

「改善を要する点」の例

- 法令違反状態にあり、速やかに改善すべき点
  - 18年度は無し。
- 法令違反状態とまではいえないが、速やかに改善が必要であると思われる点
  - 各教科に係る「専攻」に準じる形で教育研究活動を実施している教育学研究科教科教育専攻の「専修」のいくつかでは、教員配置状況が「教科に係る専攻において必要とされる教員数」を下回っている。
- 一般的見地から見て、改善が必要と思われる点
  - バリアフリー化が十分でない。
- 大学の目的に照らして、改善が期待される点
  - 大学院の一部の課程では、入学定員充足率が低い状況が見られる。
- 大学の目的に照らして、更なる向上が期待される点
  - 附属図書館の開館時間のさらなる延長を希望する自主的学習意欲の高い学生が多いことへの対応が望まれる。

自己評価書で目に付いた
具体的でない記述

- 具体的でない記述の例：
  - 学生による授業評価の結果を踏まえて、授業改善を実施している。
  - 評価結果を改善に活かしている。
  - 活発に活動している。
  - 多くの成果を上げている。
  - 高く評価されている。
  - 学生の満足度が高い。
- 具体的でない記述への対応：
  - 大学へ問い合わせて確認
  - 訪問調査時に確認
  - 大学のHPで確認

選択的評価事項

選択的評価事項の評価

目的の達成状況を4段階で評価

- 非常に優れている（S）
- 良好である（A）
- おおむね良好である（B）
- 不十分である（C）

選択的評価事項A

- 選択した大学：長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、弘前大学、秋田大学、岩手大学、山形大学、東京農工大学、奈良県立医科大学
- 評価結果：Aが7大学、Bが1大学

選択的評価事項B

- 選択した大学：秋田大学、岩手大学、山形大学、奈良県立医科大学
- 評価結果：Sが1大学、Aが3大学

平成19年度の状況

19年度の評価対象大学

- 認証評価：38大学と2短期大学
- 選択的評価事項A：8大学と1短期大学
- 選択的評価事項B：8大学